

背景

- 「部活動の地域移行」に伴い、一部のスポーツ関係者（競技団体等）において「勝利を目指してはダメなのか？」「国民スポーツ大会（国体）強化をどう考えるのか！」といった声がある。
- 全国中学校体育大会（全中）競技以外の競技団体や国民スポーツ大会（国スポ）競技以外の競技団体関係者から、この「地域移行」を機に、中学生世代への自らの競技の普及や選手強化を加速させたいという相談がある。
- 地域スポーツ推進体制の再構築、中学生世代の多様なスポーツ機会確保のためには、競技団体の理解と積極的な関与、市町村行政、学校、地域スポーツ団体との連携が不可欠と考える。

「多様な」とは

- 競技（全中競技に限らない、様々なスポーツとの出会い）
- 志向・レベル（全国を目指したい！ 友達と楽しくやりたい）
- 活動内容（毎日練習したい！ 週1回程度や週末だけでいい）
- 障害の有無（パラスポーツ、ユニバーサルスポーツの普及）
- する・みる・支える（「する」だけでなく、マネジャーとして活躍したい、大会運営スタッフとして活動したい、カメラや情報発信が得意…）



**中学生世代における「スポーツ」の様々な選択肢を拡大！
（多様な体験機会の環境づくり）**

中学生世代に関わる様々な主体を対象として「多様性」をキーワードに、ミーティングを実施ピンチをチャンスに！！

- 中学生団員増加のチャンス
- 支えるスポーツに関心がある中学生は「スポ少リーダー」の仕組みを活用可能

- ガバナンスが効いて、指導者のハラスメント防止等が進んだ地域スポーツクラブ活動と連携することで、生徒・保護者の不安を解消

- 子ども達を「オール地域」で連携・協力して育てる！
- 関係する団体それぞれにとっても、メリットがある！

